

木質バイオマス燃料等の安定的・効率的な供給・利用システム構築支援事業
/新たな燃料ポテンシャル（早生樹等）を開拓・利用可能とする“エネルギーの森”実証事業
中四国に於けるユーカリを活用した エネルギーの森実証事業

団体名：（株）ジャパンインベストメントアドバイザー、（国）東京農工大学

発表日：2026年7月23日

■事業の目的・目標

西日本に於けるユーカリの育成実証事業を通じて、高い木材生産性、育成及び伐出コスト削減の実現に向けた道筋を見い出す。

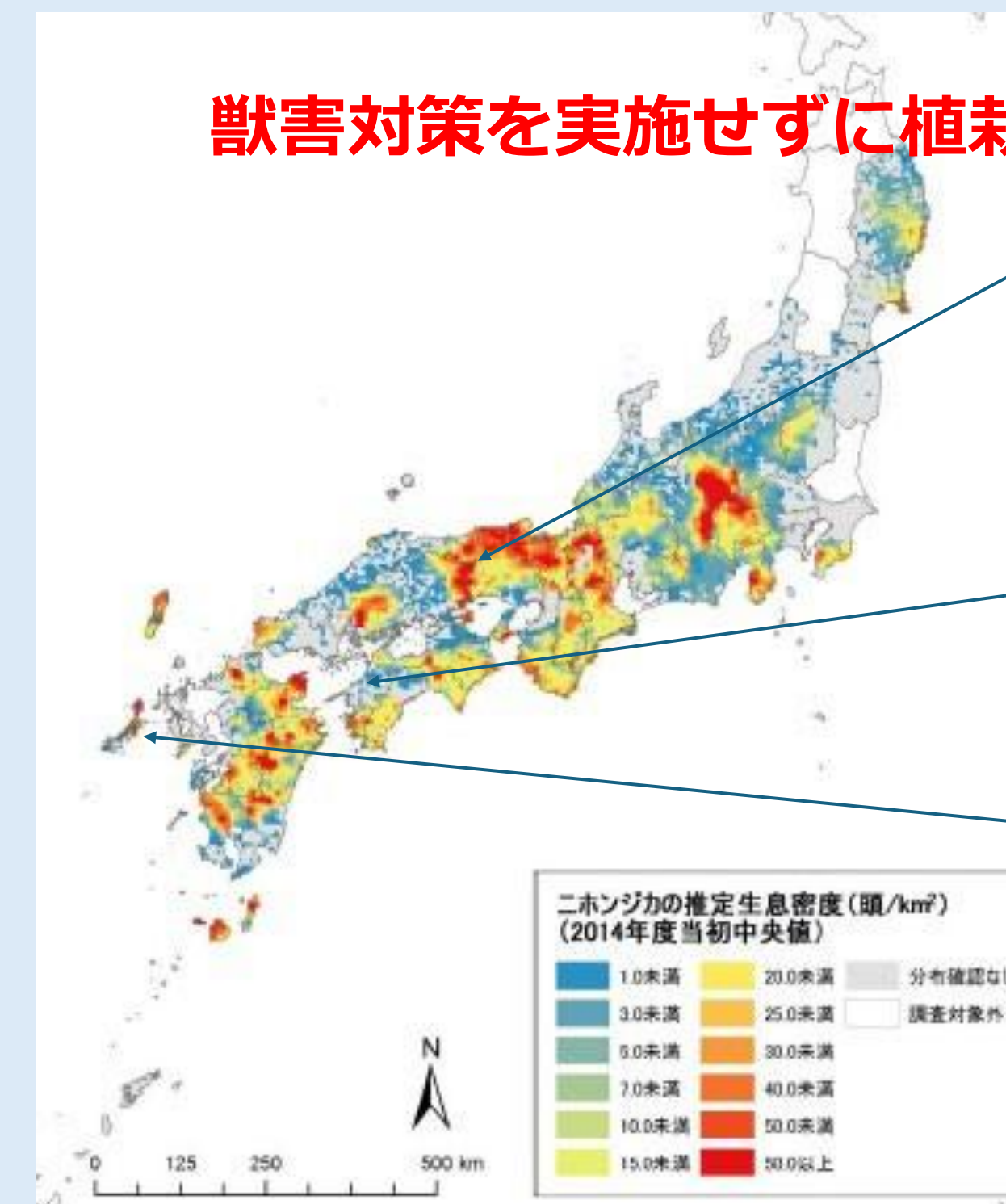
<ユーカリの特徴>

成長性（スギの2倍）
密度（同上）



<目標>

10年毎皆伐（成長性：40m/年/ha）
植栽保育コスト削減（鹿対策なし、下草刈りなし）
伐出コスト削減（高密度路網、機械化）



獣害対策を実施せずに植栽

兵庫県佐用町
植栽予定面積 60ha
2024秋～2025春 7.7ha
植栽中

愛媛県
久万高原町47ha購入済
2025春 2ha 植栽済

長崎県 五島市

■2025年の主な成果

<鹿に食われにくい樹種の特定>



2024春植え 約7m 鹿被害のない樹種



2024秋植え 周囲：概ね生存



2024秋植え 内側：ほぼ壊滅

<積雪・低温に耐える樹種の特定>



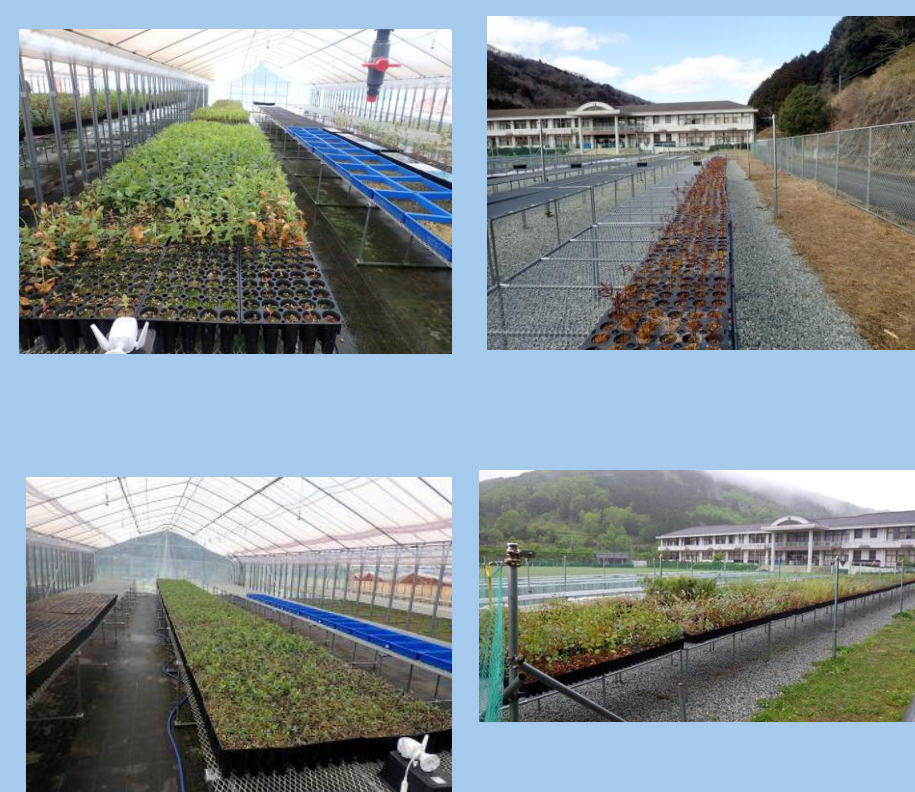
2025春植え 2026/3・4撮影

<下草刈りなし←皆伐直後植栽必須>

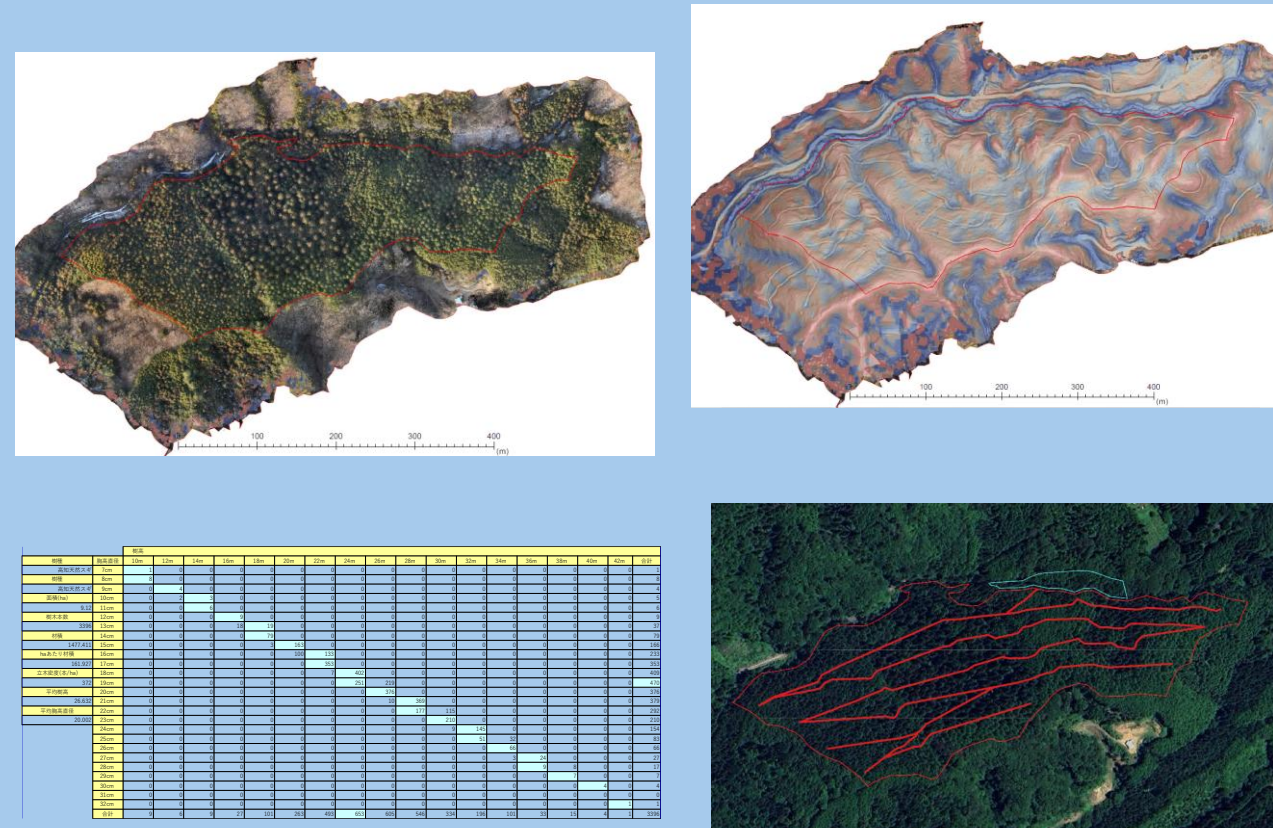


2025春植え 2026/4撮影

<春植え・秋植え用育苗>



<ドローン計測・路網設計>



<チェーンソー伐倒の削減>



但し、一定条件下

■課題と今後の取組

①苗の安定生産

- 播種時期、温度、湿度、肥料、水分条件について
 - ①春植え・秋植え
 - ②樹種

毎に改善を継続

・挿し木生産

挿し木生産ノウハウの開発（エリートツリーの再生産のため）

②抜本的な伐出能率の向上

- レーザードローン、ロングリーチ伐倒ソー、ホイール式フォワードを使いこなすことにより、作業安全性及び能率を向上させる



■実用化・事業化の見通し

○日本の気候に適合し鹿対策不要なユーカリ樹種を選別、下刈りなしによるコスト削減、機械化による伐出作業の合理化



○10～20年毎に皆伐できる林業を目指す